

各地の活動紹介 三重県

三重県言語聴覚士会

「顔の見える地域ネットワークづくり」を心掛けて

会長 佐藤 裕紀

学び合う、若い臨床家仲間

南北に連なる鈴鹿山脈と世界遺産 熊野古道、西側は伊勢湾を望む海岸線。海と山に囲まれた自然豊かな三重県。日本の神社の最高峰である伊勢神宮は皆さん一度は訪れたことがあるかもしれませんね。

私たち三重県言語聴覚士会はそんな自然豊かな地域で、言語聴覚障害を抱える方たちやそのご家族を支援するために、そして県内言語聴覚士の研鑽と交流の場を創りながら、日々臨床家として学び続けています。三重県士会をひと言で表すならば、すばり「若い!」に尽きます。平均年齢は推定33.4歳、運営委員(2015年4月現在)のメンバーはまだまだ経験年数が少ないですが、ベテランの諸先輩方に負けないくらいの熱意を持っています。そして、経験が少ない分、既成概念にとらわれず、新しいことに挑戦しようという気概に溢れています。時には、どうしたら良いかわからないような困難にぶつかることもあります。そんな時も「やったことがないならやってみる。分からなかったらどうしたら分かるか考える」の姿勢で、所属機関や専門領域を超えて互いに協力し合う素敵な仲間たちです。



伊勢神宮

実績を積んで10周年

従来からの主な活動である会員STの生涯学習支援はもとより、県内の理学・作業療法士会や東海三県の言語聴覚士会と連携を取り、より幅広い合同研修会や啓蒙イベントも開催しています。さらに県内を北勢・中勢・南勢ブロックに分け、地域別の研修会・交流会を通じて「顔の見える地域ネットワークづくり」を心掛けています。また、小児領域では、医療機関はもとより、教育機関とも連携し、学校現場でも言語・コミュニケーション発達障害のアドバイザーとしての役割も担うようになってきています。

昨年、三重県言語聴覚士会は**設立10周年**を迎えました。積み上げてきた実績を活かしながら、時代の流れに沿った新しい取り組みも積極的に取り入れて、より一層、県民の皆様へSTとしてできることを続けていきたいと思っております。



ブロック研修会症例検討



リハビリフェスタ2014

資質向上と社会貢献を目指して

三重県STのさらなる資質向上のための課題は多くあります。厳しい現状を憂うばかりではなく、これからを変えていくことにやり甲斐を見つけ出していくことが大切です。受け継がれてきた事業を基盤として、今後も広く地域に根差したリハビリテーションの一端を担いながら、コミュニケーション障害、摂食・嚥下障害支援の専門家として高度な知識とスキル、深い人間性を持ったSTを育成しながら、これからも社会貢献に努めていきます。



10周年記念イベント実行委員